

入中3年人権だよ

徳島市 八万中学校
3年生 第16号
2021年11月 8日
編集・発行 吉成正士

弘瀬喜代さん人権講演会(10月29日) 第1部

これまで3年間積みあげてきた人権学習総仕上げの一環として、10月29日に人権学習講演会を開催しました。テーマは、部落差別による結婚差別。実際に受けた相談を例に挙げながら、弘瀬さんご自身にお話いただきました。

結婚は、多くのみなさんが経験する出来事だと思います。でも、その結婚に何らかの障害が生じたとき、自分はどうするのか。どう考えればいいのか。その基本を教えていただいたような時間となりました。「その時」になって考えるのではなく、いろんな思いや考えにふれながら、自分の生き方について考えていければと思います。

みなさんの感想を中心に、講演会をふり返ってみたいと思います。

当事者の人もつらい

今日の弘瀬さんのお話を聞いて、結婚差別の恐ろしさが詳しく知れました。つとむさんとまりさんの話を聞いて、最初はつとむさんが悪いと思っていました。しかし弘瀬さんが言っていた、「部落差別をされていた人ももちろんつらいけど、親から反対をされ、結婚を予定していた相手からも別れようと言われて板挟み状態になっていたつとむさんのような当事者の人もつらい」という言葉を聞いて、苦しい思いをしたんだと思いました。

そして2つ目の話のまさひろさんとるみさんの話では、結婚を心から喜んでくれると思ったのに身内から裏切られたときのまさひろさんはとても腹立たしかったと思います。

結婚差別をされて納得したり、別れても後悔しない人はいないと思います。そして、その反対をされたきっかけとなった「部落差別をする人」は、ただ「自分の血筋に部落の人の血を入れたくない」だとか、自分勝手な理由で人の人生をめちゃくちゃにしているということに気づいていないと思います。だからそういう考えを持った人が少しでも減らせたらいいなと思いました。

2組坂元優太

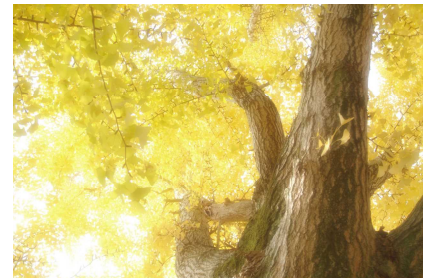
「仲間の存在」だと思います。その大切さ。みなさんには今、自分の胸の内をきちんと打ち明けられる仲間がいるのでしょうか？

私の教え子の中にも、「部落問題・人権問題について語り合っていたからこそ相談できる仲間がいて救わ

れた」という子がいます。逆に、そういった学習がなくて相談できる仲間がおらず、孤立してしまった部落外の子もいます。部落、部落外、関係なく、胸の内を相談できる仲間の存在が大切だということを、弘瀬さんは教えてくれたのだと思います。

胸の内を相談できる仲間がいるという人、まだいないという人、それぞれかもしれません。いないという人も焦る必要はありません。いつかそんな人ができるように、そんな自分になっていくことです。人に信頼される自分になっていくことです。そんな人は、高校に行っても、社会に出ても、信頼される人になっていくのだと思います。

嘘をつかない、人の悪口を言わない、時間を守る、自分を誤魔化さない、そんな自分をめざしていくことです。



そして最後に書いてくれたように、「減らす」のは、まず「あなた」からです。共に頑張りましょう。

全く他人事じゃなく身近なこと

今日は同和問題というものがとても身近なものに感じられ、改めて私の考えをもう一度考えさせられる素晴らしい講演だったと思います。

話を聞いていると、弘瀬さんが話し上手というのもあると思いますが、とても心苦しい気持ちになりました。今まで私は、同和問題は本当に大事な問題であり、自分が深く考えてなくしていかなければいけないと思っていましたが、私の身近には起こっていないなど、どこか他人事のように捉えていたと思います。でも、今回弘瀬さんが話してくださったのは、どれも徳島で起きたことで、もしかしたら私の遠い遠い親戚や先祖が、その問題に悩まされていたかもしれないと考えると、全く他人事じゃなくて、すごく身近なことなんだなと思いました。そして、今までにはなかったとしても、今後の人生でももしかしたら、自分か私の身近な人がそういう問題に関わってしまうかもしれないと考えると、弘瀬さんの話がずっと心に入ってきました。

同和地区出身というのは、たまたまその場所に産まれたというだけで、その人は何も悪いことはしていないので、そういう肩書きで差別したりするんじゃないで、その人自身を、その人の中身を見てあげるべきだと思いました。

